

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	令和7年度 旧本郷一小跡地（仮称）ほんごうパーク管理運営検討会（第8回）
開催日時	令和8年3月23日（月）18：30～20：30
開催場所	COBACO
出席者	参加者：8名 浅沼、小野、柏村、齋藤、佐藤（信）、佐藤（理）、根本、松田 事務局：5名 建設水道課 課長補佐 佐藤、管理係長 金田、主任主査 猪俣 事業受託者 株式会社コムテック地域工学研究所 協門、小浦（WEB）
議 題	1. 今後の跡地の整備方針について 2. 今後の活動に向けた意見交換
資料の名称	・次第 ・資料1（第7回管理運営検討会 議事録） ・資料2（第3回町民懇談会 議事録） ・資料3（旧本郷第一小学校跡地再整備計画） ・管理運営勉強会（令和7年12月17日） 議事録
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>上記の議題について資料をもとに事務局より説明。 意見概要は下記のとおり。</p> <p>1. 今後の跡地の整備方針について</p> <p>事務局より、こども園及び子育て支援センター、公園、駐車場が一体となった再整備計画について、これまでの検討経過と課題、新たな土地利用方針、施設整備イメージ（ゾーニング）のたたき台、概算工事費、工事工程案、次年度の活動支援の方針を説明し、これらについて意見交換した。</p> <p>・（当日欠席者より事前に提出された意見）資料にこども園の現状と将来の園児数を入れた方が良い。園児が今後少なくなり、空きスペースができるようであれば、地元が活用できるように検討してほしい。</p> <p>→（事務局／町）園児数の見通しをすぐに出せないため、すぐに提供できない。今後、</p>	

園児数の見通しによって、具体的な施設の規模を検討していく。

- ・現在の子育て支援センターの機能を全て本郷に集約するとの理解で合っているか。現在の子育て支援センターがどこにあるのか。

→(事務局/町) 現在は会津西陵高校グラウンドの近くにある。現施設はかつての保育所の建物を使用しており、親子が日常的に自由に遊べる空間になっている。町内では、高田地区の1か所のみで、町内全域から1802人が集まってきている。

- ・これまで一小跡地の町民懇談会は本郷で実施してきたが、第4回はじげんホールで実施するとのこと。現在高田にある子育て支援センターを本郷に持ってくるので、高田や新鶴の方々にも理解してもらう必要があるためか。

→(事務局/町) その通りである。

- ・子育て支援センター含め、これまでにない施設や要素が増えており、それらを収め、全体像をどう描くかという点で、非常に力量のある設計者が必要になるのではないか。あわせて、今後議論を進める中では、A案、B案、C案のように、複数の案を出してもらいたい。

- ・こども園基本構想を作成する際に、子どもの将来人数を踏まえて設計しているはずだ。

→(事務局/町) 担当課に確認したところでは、こども園の基本構想では、現時点の人数を基に建物規模を設定しており、今後、開園時の人数推計を踏まえて基本設計を行う考えである。ただし、人数が減っても施設規模がそのまま小さくなるとは限らない。学級編成の検討に関わる様々な手続きを経た上で、建物の必要な規模を今後整理していくことになる。将来人数だけを先に出すと、それだけで判断される懸念もある。また、推計の出生数が分かっても全員が本郷こども園に通うとは限らない。そのような点から、将来人数を提示しにくい。

→本郷だけに限るとそのような話になるが、町全体として見れば、一つの指標として推計を出しても差し支えないのではないか。

- ・建物形状は資料の図面で薄く示されている通りになるのか。

→(事務局/町) こども園の基本構想(本郷学園内)の建物形状をそのままトレースしたもので、西側にある少し大きめの建物は子育て支援センターを想定している。ただし、跡地での検討次第ではこの配置にならない可能性もあるため、現時点ではあくまで目安として示している。

- ・空いている施設や独立しているスペースがあるなら、一般町民が使えるようにすべきではないかとの意見も出ているが、どのような考えか。

→(事務局/町) こども園の管理上、建物の一部を開放するのはかなり難しいと聞いている。子どもがいる時間帯は安全確保のために仕切りが必要であり、園庭は条件が整えば子どもがいない時間に開放できる可能性はあるものの、建物内の一部開放はハードルが高い。

また、園児数や将来の子ども的人数については、明日の第4回町民懇談会では方針の説明が中心となるため、そこまで細かい内容は出さない考えである。こども園整備の内容が固まった段階で改めて説明する予定。

- ・こども園とこれまで検討を進めてきた公園を完全に線引きして作るのは違うと思う。安

全管理の視点だけで区切るのは良くない。今の教育は、学校も地域の力を取り込みながら教育を行っており、子どもたちの力も地域に発揮していくような、ボーダーレスな流れになっている。線引きして安全管理上入れないとするのではなく、コミュニケーションや賑わいの創出を生む、共有できる部分を作らないと、あの空間を最大限活用できない。線引きして互いに入るなという形にすると、時代からはるかに遅れた建物や場所を作ることになる。10年先、20年先を見据えて考える必要がある。

→(事務局/町) 管理上の仕切りは一定程度必要だが、利活用方針の3つの視点も踏まえ、なるべく連携が図れるような配置にできればと思う。ただし、こども園側の管理上の決まりをまだ十分に把握できていないため、その条件をクリアしつつ、隣接する施設となるべく連携できるよう、その点を考慮して検討していきたい。

→こども園の基本構想の検討時も、できるだけ境界や仕切りをつくらず、お互いが触れ合える形にするべきと提案した。跡地の整備でも、高齢者と園児が触れ合える共有のスペースを作るといった発想が大事である。高齢者は子どもたちから活力をもらい、子どもたちも高齢者と触れ合うことで社会性の育成につながる。安全管理だけで区切ってしまうと、10年、20年前の学校と同じになってしまう。

- 3つの理念のひとつであるコミュニティ形成を図るという柱は、触れ合いを自由にできる場を作ることにある。対象は小さい子から高齢者までの全世代であり、小学生だけでなく中学生や高校生も来られるような、全世代が交流できる場所にしたい。だからこそ、ここをどう交流できる場にするかがとても大事。そのうえで、これまで活動してきた仮設建物を活用した活動はどうになってしまうのか、よく分からなくなってしまった。

→(事務局/町) こども園と公園でできるだけ交流を図れる設えを検討していくべきと思っている。

公園側で検討していた建物はこの図面では表示していないが、こども園側には子育て支援センターが入るため、機能が重複しないよう整理する必要がある。その場合、公園エリアでは、半屋外の大屋根スペース、カフェスペース、研修室などをどう設置するかを引き続き検討していくことになる。さらに、こども園側の子育て支援センターの建物と公園側の建物は、隣接あるいは連携できる形にして、一体的に交流できるようにするなど今後検討していく必要がある。

- これまで、全体のスペースをどう活かすかを議論してきた。そのスペースが半分以下になるのであれば、その限られた空間をどう活用して3つの理念を生かしていくか新たな発想が必要になる。その一つが、子どもの機能が重なり合うような考え方である。こども園や本郷ではこうした理念でまちづくりや子育てをしていくのだということを、皆がぱっと分かる形にしていかなければならない。残されたスペースに後から詰め込むのではなく、新しく青写真を書き直すような発想が必要である。

→革新的なことを提起しているのであり、一番大事なところだ。時代を先取りした、生きた整備計画になるかどうかはそこにかかっている。その意味でも、こども教育課と建設水道課が連携し、しっかり検討してほしい。

一体的な整備と言うのは簡単だが、将来をしっかりと見据えて、スペースの共有等斬新で先駆的な整備が、安全上の問題も含めて本当に可能かどうか検討する必要がある。

個人的には、簡単な話ではないと思っている。

特に、公園エリアがここまで小さくなった中で、全敷地を使って考えてきた構想をどこまで収れんできるのか、掲げた理念に沿った運営が本当にできるのか、運営組織そのものの必要性も含めて、自分の中ではまだ整理しきれていない。どうするのが望ましいのかは、皆で知恵を出し合って考えていくしかない。

- ・来年度、団体を作る場合の補助金の話などもあったが、コンサルの来年度以降の関わりについて、何か見通しがあるのか。

→(事務局/町) 来年度は、コンサルと町との委託契約はなくなる。例えば、町が団体に活動補助金を出し、団体側からコンサルにアドバイザーとして関わってもらう形であれば可能と考えている。

→仮にスタートアップ企業補助金を活用しても年10万円程度であり、その金額ではコンサルに継続して関わってもらうのは難しい。そのため、別途、団体の資金源について自分たちで考える必要があるということか。

→(事務局/町) いろいろな補助金を検討してもらう形になると思う。町として、現時点ではこの公園の維持管理を業務として出す段階にはないため、資金面で直接支援するのは難しい。そのため、任意団体の中でやりくりしてもらうことになると思う。

- ・なぜこども園と公園は図面のような分け方になっているのか。

→(事務局/町) こども園の基本構想時の課題としては、本郷学園の校庭に建てた場合、こども園設置に必要な9メートル幅員の接道を確保できない点があった。跡地において、現在その条件を満たすのは、ミサトベースが建っている北側の道路である。この計画では、南側の県道から伸びる道路も9メートルで整備する想定だが、南側は既存駐車場があり、駐車場を拡大する場合も西側に広げた方が敷地利用として効率がよいことから、南側は駐車場エリアとして活用し、北側をこども園エリアにする案となった。

また、現行の本郷こども園の乳児部棟はデイサービスセンターと一体の建物になっており、これまで高齢者と乳児部の子どもたちが触れ合う機会があった。そうした連携を継続するには、北側にあるミサトベースとの連携も考え、北側に設置した方がこれまでどおりのつながりを取りやすいという考えもあり北側とした。

- ・全体のゾーニングに関しては、今回の計画案である程度固めてしまうのか。それとも来年度以降の基本設計でまたそこも含めて検討していくのか。

→(事務局/町) こども園の基本構想は、現時点では本郷学園前期課程の校庭に整備する前提でつくられている。そのため、今後仮に跡地に整備することになれば、基本構想自体を改めて考え直す必要があると聞いている。そのうえで基本設計に入る流れになり、令和8年度のスケジュールはタイトである。

→こども園の基本設計は令和8年度ではないということか。また、計画上は公園とこども園を一体に整備することだが、整備の目標年次は同じなのか。

→(事務局/町) 基本設計は令和8年度という認識。双方で統一した目標で進めており、令和13年にすべての施設が使用できるようになることを想定している。

・配置については色々な角度から検討した方がよいと思う。現状の図面では、保護者の送り迎えの動線や子どもの遊び場に関しても、不自由が生じる可能性があるように感じる。こども園エリアは駐車場に近い方がよい。公園エリアについては、現状ミサトベースで遊んだ子どもが続けて跡地で遊んでいる様子をよく見かけることから、ミサトベースに近い方が機能的。

→ご意見は良くわかるが、来年度以降のこども園の基本設計の中で、細かい要望等を踏まえて検討するのであり、この場で決められることではないと思う。このゾーニングは確定ではなく、今後の検討で変わることもあり得ると認識している。

→(事務局/町)エリア分け自体を変える可能性があるかどうかは、現時点では何とも言えない。ただ、建物の配置は今後の検討次第で変える可能性があり、その中で、ミサトベースから公園エリアへ行く通路のようなものを設けることも検討できるのではないかと考えている。

→理念や考え方は見直すことができるが、建物は簡単には変えられないので、様々な角度から検討し最も使いやすい形に収めていく必要がある。その意味では、現在の配置は問題があると思う。

・魅力的な建物や場所にすることが必要がある。そのひとつとして、磐梯山や飯豊山等の景観やメタセコイアの存在は、数字では表せない大きな魅力であり、町のシンボルとして大切にすべきだと考えている。ぱっと見た時にここがどこか分かる、そういうシンボルが必要である。ここにきた人が、いい場所だ、ここで子どもを育てたいと思えるような魅力をどう作るかを考えていく必要がある。

→だから設計者の役割は非常に大きい。設計段階に入ってからでは大きく変えにくいいため、その前段で、こうした考えや地域の声をしっかり出しておく必要がある

・今回このように一定の収れんが図れたことはよかったと思っており、背景には予算の問題も大きかったのだろうと感じている。公園側の建物がなくなり、面積も小さくなったことで全体として収まったので、ここに従来の構想をそのまま重ねていくと、また予算が膨らみ、難しくなる。そのため、最低限のもので成立させる方向でよいと個人的には考えている。

一方で、例えば子育て支援センターと公園の建物ができても、日曜日にどちらも閉まっ
ていて、暑い日や寒い日に屋内で遊べる空間があるのに使えないのはもったいない。そうした意味では、子育て支援センターの施設を休日利用できるようにし、その管理運営を担う形ができれば、任意団体の存在意義も出てくると思う。建物を減らしたことで全体は収まったが、今あるものをうまく使うアイディアは出していきたい。

そのことを踏まえると、配置やゾーニングも改めて考える必要があり、子育て支援センターがこども園敷地にあるのがよいのか、公園敷地にあるのがよいのかは、まだ考える余地がある。中間にまたがるような形であれば、どちらにもアクセスできるハブのような建物として使える可能性もある。細かな検討は来年度以降になると思うが、ここからさらに要素を積み上げるのではなく、これまでの数年間で示されてきた公園の見方や使われ方を踏まえたうえで、さらに収斂していく方向で考えた方がよいと考えている。

・今回の予算では、公園の建物や半屋外施設は含まれていないという認識か。

→(事務局／町)建物の内訳をきちんと把握できていないが、前の公園の概算工事費 15 億円をベースに拾っており、機能が重複する部分を抜いて算定していると思われる。また、面積が狭くなったことで公園エリアの工事費が下がっているかもしれない。一方で、公園エリアでどの程度の施設を想定しているのかまでは、この数字だけでは分からない。

→公園工事費には公園の建物分の予算は含まれていないと思われる。

→(事務局／町)おそらく造成や外構部分であり、建物分は含まれていない。

→建物は新たに作るのか。こども園等の建物の中に入れ込むのか。

→建築工事費には子育て支援センターも含むのかどうか等は、現時点では概算段階であり、はっきり分からない。ただ、それによる予算の取り方や位置付けは計画全体にも関わってくる。来年度以降の基本設計で、それぞれ別々に図面化するのではなく、全体を一体で設計していく考えなのかどうか。それがバラバラだと先ほどの問題が出てくる。

→(事務局／町)機能の重複がないように、連携は図っているとは認識している。

- 行政は縦割りの発想が残りやすいが、それを取り払いプロジェクトチームのような発想で今後は進めてほしい。こども園側はこども教育課、公園側は建設水道課という所管の分け方ではなく、子どもの目線、町民の目線、利用者の目線で何がベストかを考えるべきである。例えば、子育て支援センターが土日に閉まっていたりして利用できないことが、利用者にとって本当に望ましいのかは検討が必要。子どもにとって一番よい形を基準に、お互いの関係課で知恵を出し合う発想が必要である。

- 子育て支援センターの部分を何とか地域と共用する方法はないかと町に相談し、調べてもらっている。一体的に言いながら、セキュリティや法制度を理由に分断してしまう恐れがある。先を見越して先進的な取組になるよう考える必要がある。

駐車場の位置やメタセコイヤの件も含め、色々な配置の可能性はある。町が出した資料は効率的な分け方なのかもしれないが、利用者目線、町民目線で見れば、よりよいアイデアが出てくると思う。定番ではなく、今出ている考え方やアイデアを吸い取って提案できる設計者をお願いしたい。これまで4年間取り組んできたのだから、引き続きしっかり取り組みたい。それにより素晴らしいものができると思う。

→(事務局／町)各課が連携をして、よりいいものができるように検討していきたい。

→ミサトベースと連携と言うが、ハード面でもスムーズに行き来できるようなゾーニングにしないと意味がない。本郷こども園の図面をそのまま落とすのではなく、利用者目線に即したユニークな施設を設計していただきたい。ボーダーレスの考え方も踏まえてほしい。

- 今日は幼稚園関係者の方が出席しているので、駐車場とこども園が分かれていることについて意見を聞きたい。

→今意見が出ている建物の共有や開放の考え方について、近い形で運営している企業型保育園の事例が若松にある(アイアイプラス)。具体的には、土日祝日も利用できるフリースペースを設けており、会議、イベント、遊び、ワークショップなどに使える。この共有空間を中心にして、園舎本体とそれ以外を分けて運営している。日曜日には

ヨガやワークショップなども行っている。他の園でも同様のことをやっているところがある。

共有部分を基点に一般利用できる空間と園の空間を分ける考え方は良いと思う。その際、駐車場が公園利用者向けなのか保護者の送迎向けなのかを明確にしないと混乱が生じる可能性がある。

園の立場からすると、園の遊具だけでなく、すぐ公園に行ける環境があることは非常にありがたい。感染症対応などで学年ごとに遊ぶ場所を分けたい時にも助かる。子どもが遊べる場所が園以外にあり、地域の人と触れ合えるのは、子どもにとってもよい環境である。

実際にそうした現場を見に行くこと大切。どのように運営しているのか実際に見て、その上で何が足りないのか、何が必要なのかを考えた方がよい。

こども園は各地で建て直しが進んでおり、実際に子どもが減っていくことを前提にした整備も増えており、従来の年少・年中・年長のクラス分けではなく、縦割り・ミックスを目指して園舎を作るところも市内で増えている。

将来的な子どもの減少を見据えながら、ここ数年で整備された施設や、子育て支援を前面に出している事例を見ると、とても勉強になる。何を打ち出すのか、どこをセールスポイントにするのかをはっきりさせて、だからここに行きたいと思えるものがあると良い。

→町内では宮川小は地域の人が学校に入れるスペースがあり、給食のサポートに入ったりしており、2～3年続けている。

2. 今後の活動に向けた意見交換

コンサルより今後新たな計画を進めるにあたっての留意点と、現時点で想定される管理運営のあり方について参考として説明した上で、今後の活動について、ひとりひとりご意見を伺った。

・建物ができたとしても、基本的には子育て支援センターやこども園の施設になるので、施設管理はそちらが担うのが自然だと思う。そう考えると、これまで想定していた管理業務の範囲はかなり絞られ、こちらとしてはイベント企画やルールづくりに関わる形がよいのではないかと考えている。

その規模になった時に何人ぐらい集まって、どの程度の組織にするかはまだ分からないが、先ほどの予算感も踏まえると、少なくとも来年は、これまでのように毎月集まって進めるまではしなくてもよいのではないかと考えている。

一方で、これまでやってきた水遊びのようなことは、今後、子育て支援センターとうまく連携しながら進めていけば、後々の連携体制にもつながるのではないかと考えている。そのため、橋渡しをしてもらえるのであれば、そうした準備のための団体には自分も参加できると思っている。先々にはもっと決めることがあるが、来年はなるべくそこに絞った方が、個人的にも負担が少なくてよいと感じている。

・今後どうなっていくかは全く想像がつかないが、この活動自体は継続していった方がよ

いと考えている。先のご意見のような形で継続しつつ、この先どうなっていくかは今後決まっていくことだと思う。

エリプラとは連携していった方がよいと感じている。実際に、まちなかの賑わい創出にも関わってくる事なので、そこは連携して進める形になるのではないかと。走り続ける中で、どういう方向がよいのか見えてくると思うので、まずは作っていくことが重要だと考えている。

- ・今まで全体エリアをどうするかで管理運営で考えてきたが、突然の軌道修正でどのように整理をしていいのかわからないというのが、率直に思うところ。
- ・正直、今の段階ではどうしていいかわからない。今後どうなっていくのかがまだ見えない中で、もう少し時間が必要だと思っている。子育て支援センターとの連携もあるが、それを町民側が運営に絡めて担えるのか等の懸念点もある。

これまでは敷地全体を使って、みんなで考えようという中で、一部の方に核になって動いて頂いたのやってこられた面もある。一方で、今後イベントを続けるとしても、活動費が10数万円程度で、さらに持ち出しが発生するとなると簡単な話ではない。民間の補助金を使うにしても自己負担が必要であり、町の補助金だけでできる話ではなく、自分たちでも資金を持たないと進められない。そう考えてしまうと、本当にできるのかという思いが強い。

- ・エリアプラットフォームは枠組みであり、その中で何をするのかを検討している。今年度その枠組みは立ち上がる予定。高田と一緒にするのか、本郷で別に立ち上げるのかはまだわからないが、まちなかの賑わいという観点では、別々に団体を作るより、共通の目的のもとで連携した方がよいとの考えもある。目指す方向が重なる部分もあるため、連携を視野に入れて進めていく方針。
- ・枠組みをきちんと決めた上で関わっていった方がよい。新整備計画では、役場の関係部署も増える中で、そこを調整しながら進める必要があるため、整理されないまま進むと、どの部分にどう関わるのかが決めきれず、動きがまとまらずにスムーズに進まなくなる懸念がある。ただ、空いているスペースを使ってイベントを行うこと自体は問題ないと思う。一方で、子育て支援センターやこども園など、関係する相手やその意向も関わってくるため、そのあたりは行政が主導して整理した上で関わる形にした方がよいと思う。意見を吸い上げる場についても、ここだけではなく、子育て支援センター側を含めた関係者が集まり、意見を言い合える別の場をきちんと設けた上で、一体的に進めていく必要がある。
- ・いろいろな計画が並行して進んでいる中で、一番怖いのは、運営主体が途中で変わる事だと思っている。自身の経験でも、市で運営していた保育園が急に民間委託になるようなケースはあり、そのたびに大きな混乱が起きる。

例えば、今は子育て支援センターは民間、こども園は町営というように事業が分かれているが、今後こども園まで民間委託になるようなことがあると、前提が大きく変わってしまう。そうなると、現場で働く人や関わる人すべてに影響が及ぶため、どのくらいのスパンで何を検討していくのかをきちんと整理して進めないと現場は大混乱になる。その点は押さえて進めてほしい。

- ・(事務局／事業受託者) 整備計画の前提条件が変わり、管理運営の考え方も見直しが必要な段階に来ている。こども園と公園が同じ場所に整備されることで、使い方の前提自体が変わっており、こども園側としても、すぐ隣に一定規模の公園があることを踏まえた検討が必要になる。子どもや保護者の公園の使い方は大きく変わる可能性があり、送迎のついでに公園を使う、カフェがあれば保護者同士が少し話すといった利用も想定されるため、公園側も規模が小さくなったことだけでなく、使い方そのものを改めて考える必要がある。

今後の活動について、こども園の運営に関わる方や保護者の意見を実際に話し合いの場
に交えて、丁寧に聞きながら、より密に議論した上で活動計画を考える必要がある。

園庭の週末開放のような事例も参考にしながら、一体的なハードのあり方や管理運営の
方法を改めて考えていくことが必要であり、そうした取組がこの場所らしさにつながっ
ていくと思う。コンサルの支援自体は今年度までとなるが、機会があれば今後も関わっ
ていきたい。

- ・(事務局／町) 皆様のご意見をお聞きし、概ね、来年度以降、活動は小さくなるかもし
れないが、継続していった方が良くとのことのご意見が多かったので、引き続き、この公園エ
リアを今後どうやって機能を絞り込んでいくか等、この会で揉んで行けたらと思うので、
来年度以降、こういった場を町の方で設けさせていただく。

以上